

看護系大学の卒後支援のための卒後動向および支援ニーズの実態調査

牧 香里¹⁾ 吉川千鶴子²⁾ 掛田 遥³⁾
藤 理絵¹⁾ 佐久間良子¹⁾ 久木原博子²⁾
古賀佳代子¹⁾ 馬場みちえ⁴⁾

¹⁾ 福岡大学医学部看護学科

²⁾ 国際医療福祉大学福岡保健医療学部看護学科

³⁾ 産業医科大学産業保健学部看護学科

⁴⁾ 令和健康科学大学看護学部看護学科

要旨：福岡大学医学部看護学科の卒業生（1回生～12回生）のうち、福岡大学の関連病院に勤務している看護職者270名を対象に、卒後の就業実態や支援ニーズを明かにすることを目的に質問紙調査を行った。調査内容は、基本属性や職務上の困難、卒業後支援として大学に期待すること等の7項目である。回答数は209名（回収率77.4%）であった。性別は女性が204名（98%）、看護師経験年数は5-10年が最も多く40%であった。年齢別構成25-29歳が42%であり、35歳以上は1%以下であった。84名（40%）が部署の異動を経験していた。看護師1年目で経験した困難な事柄は「看護技術不足」「医療機器使用未経験」「自己の学習不足」が多く、自由記載には「多重課題・優先順位」「実習と現場のギャップ」に関する記載が多かった。克服の仕方としては、上司や同僚、友人などの周囲の人に相談していた。卒業支援として大学に期待することは「看護トピックスの研修」「転職相談」「メンタルサポート」などであった。卒業生の支援としては、看護トピックスの研修会開催、教員とのつながりの場、情報提供や情報共有ができる卒業生ネットワークの構築の必要性が示唆された。

キーワード：看護大学生、卒業生動向調査、卒後支援ニーズ